

醬油発祥
味噌伝来
虚無僧尺八

Access map



- 自動車/御坊湯浅道路 広川I.C.~国道42号線15分
- 電車/JR紀勢本線 紀伊由良駅から徒歩15分(1km)

臨濟宗
鷲峰山 興国寺
和歌山県日高郡由良町門前801
電話 0738-65-0154



臨濟宗
鷲峰山 興国寺



和歌山・由良

興国寺
関南第一禅林
ここに。
日本の心、

寺の歴史について

興国寺は「関南第一禅林」と称され、古くから「開山」の名で親しまれています。安貞元年(1227)、鎌倉3代将軍・源実朝の菩提を弔うために建てられた西方寺が前身。後に法燈国師を開山に迎え、宗旨を禅宗に改宗。日本24流の4番目となる法燈派の派祖となり、最盛時には末寺も143カ寺を数え、多くの高僧を輩出しました。興国元年(1340)、後村上天皇より興国寺号を拝受。天正13年(1585)、羽柴秀吉の紀州征伐によって堂塔などが焼失。慶長6年(1601)に紀州藩初代藩主・浅野幸長によって再興され、その後も歴代の住職が復興に尽力し、昭和60年2月、妙心寺派に復帰。同9月には、法燈国師700年大遠縁を厳修。寺宝に重要文化財でもある木造法燈国師坐像や絹本着色法燈国師像、紙本墨書誓度院規式があります。



多分5月、あま誕生



天狗堂の犬天狗面

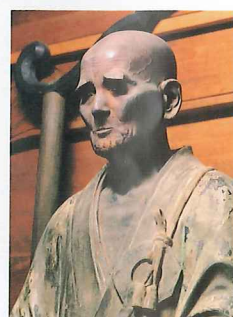
法燈国師(心地覚心)

信州(長野県)松本生まれの覚心(後の法燈国師)は19歳で出家し、東大寺にて得度。高野山にて密教を学び、金剛三昧院で禅密を修行。その後も各地の高僧について禅の修行に励む。建長元年(1249)に宋(中国)へ渡り、径山興聖万寿禅寺をはじめ多くの寺を行脚し、杭州護国寺で無門禅師から悟りの証である禅の印可を受けて、同6年(1254)に帰国しました。金剛三昧院の住職として務めた後、正嘉2年(1258)に願性より請われて西方寺に赴き、宗旨を改めて禅宗の開祖に。亀

山上皇から禅師号、後醍醐天皇より国師号を勅諭されました。興国元年(1340)、後村上天皇より興国寺号を贈られ、末寺も143カ寺を数え「紀の国に興国寺あり」と言われるほど栄えました。また興国寺は、日本の醤油文化の発祥であり、法燈国師が中国で修得した金山寺味噌の製造過程から、醤油を生み出したといわれています。ほかにも、虚無僧で知られる普化明暗尺八発祥の寺であり、一夜にして七堂伽藍を建立した天狗伝説など、興味深い伝説も数多く語り継がれています。



法堂・仏殿



法燈国師坐像

興国寺ガイド

【大門】

参道入り口。もとは県道にあり平成9年に移築。秀吉の兵火にかかるまで大寺の門として行っていました。

【参道】

途中には明治以降の文化開花に貢献した由良守応の墓と顕彰碑もあります。

【山門】

昭和60年に寄進されるも掲額は古く、宋竹友と書かれているため、鎌倉時代まで遡るといわれています。

【法堂】

本堂とも仏殿とも呼ばれ、宋風を取り入れた重層入母屋造。寛政9年(1797)に再建。内部には本尊の釈迦如来像などを安置しています。

【禅堂】

雲水の修行の場である坐禅堂。坐禅会の参禅者を除き、一般参詣者の入堂は禁止しています。

【奥の院】

禅堂の中央奥から階段があり、奥の院と繋がっています。文政6年(1823)再建。重要文化財の木造法燈国師坐像を安置しています。

【天狗堂】

境内の奥。戦災に遭った七堂伽藍を天狗が一夜にして建立したという伝説にちなみ、高さ2.4m、幅2.7mの大天狗の面が奉られています。

【天狗杉】

樹齢約500年を数える巨木。赤城山の天狗の背に乗せられた興国寺の使僧が降りたといわれる伝説の杉。

※悠久の昔より変わらない由良の山並みを借景に、歴史的な七堂伽藍が整う境内をごゆっくりとご散策ください。



興国寺略図



山門

開山諱法要

法燈国師は永仁6年(1298)10月13日、92歳で入寂。法要は10月12日の夕刻から13日の午前にかけて営まれます。

灯籠焼

毎年8月15日の夜に開催。火祭りともいわれ、たいまつ踊りや切子灯籠など、県無形民俗文化財にも指定されています。

花祭り

5月5日(こどもの日)開催。御本尊・釈迦如来の生誕行事であり、子ども姿のお釈迦さまの像に、甘茶をかけて生誕のお祝いをします。

天狗祭

毎年成人の日に開催。戦災に遭って困っていた時、赤城山の天狗が一夜にしてお堂を建立し助けてくれたという伝説にちなみます。